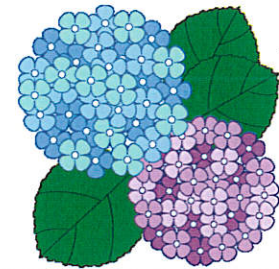


テーマ：「教員から見た学校規模と子供の教育」



1. はじめに
2. 複式学級を担任するとき心掛けていること
 - (1) 複式学級の利点・課題を常に意識すること

	利 点	課 題
少人数	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人と接する時間や場面を多くもつことができる。 ・児童一人一人の状況や個性を詳細にとらえることができる。 ・児童相互，児童と教師の関係が濃密である。 ・家庭的雰囲気が醸成されやすい。 ・学級の中で，一人一人の存在の占める意味が大きい。 ・自分がしなければという思いが強くなり，よく働く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としての意欲が高まりにくい場合がある。 ・言語コミュニケーション能力を高めるのに工夫や支援が必要である。 ・刺激が少なく，馴れ合いになったり，競争心が乏しくなったりする。 ・序列意識が固定化しやすい。 ・多様な考えが出にくい。 ・学年別指導では，担任の直接指導が半減され，指導が徹底しにくいこともある。 ・担任の教材研究や教材・教具の準備が煩雑かつ時間を要する。
異年齢集団	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢差による役割意識を高め，社会性を養うことができやすい。 ・上位学年がリーダーとしての自覚をもち，活躍する場が多い。 ・下位学年は，身近にお手本があり，学ぶことが多い。 ・まとまりのある学級としての生活をめざすことから，協力する態度が育ちやすい。 	
指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人にきめ細かい指導ができる。 ・一人一人が主役として期待される場面が多い。 ・自主的かつ協力的な学習態度が育成される。 ・質問や発表等の機会が多い。 ・教材・教具類の一人当たりの使用頻度が高い。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や伝統的な文化・行事を教育に生かせる。 ・学校・家庭・地域が一体となった教育活動を進めやすい。 	

(2) 複式学級の利点（メリット）を生かした学級経営【荒木たか子先生から教えていただいたこと】

子どもたちに常に掛けている言葉

『複式学級できちんと勉強できる人は，単学級の人よりずっとすごい。進んでやろうという気持ちがあること・勉強の仕方が分かること・友達と協力できること，この力をもっていないとできないからだよ。だから，みんなは偉い！』

担任として心掛けていること

- ・少人数のよさを生かす
- ・間接指導のよさを生かす
- ・単学級の子ども達に負けない力をつける

そのために…

- ①人の話を聴く力を育てる
- ②書くことを嫌がらない力をつける
- ③互いに認め合い，高め合う関係をつくる

3. 地域の学校として小規模校のよさ（袖崎小学校・富並小学校の例）

- (1) 学校の教育課程へ地域の特色を生かす
 - ・サトイモ栽培と芋煮会 ・音楽発表（山ノ内太鼓）
 - ・地域の自然に学ぶ生活科・総合的な学習の時間
（湯舟沢探検・ベニバナ栽培活動・ジュンサイ採取体験・だんごさしなど）
- (2) 豊かな地域活動
 - ・袖崎元気っ子 ・大高根わんぱく道場

4. おわりに

「教員として見た学校規模と子どもたち」

令和2年6月26日 楯岡小学校非常勤講師 伊藤紀子

はじめに

○学校は楽しいところ

1、大規模校のよさ、大変さ

○人数が多いとおもしろい

・いろいろな子どもたち・・・集団で関わりながら伸びる

・ダイナミックな活動

○人数が多いと大変

・時間に追われる生活

・個より集団優先

2、小規模校のよさ、大変さ

○人数が少ないからこそそのよさ

・全校生が友達、兄弟、仲間

・全員で一つのことに向かう喜び

○人数が少ないための大変さ

・選択肢がない

・大勢の中での経験不足・・・「井の中の蛙」になりがち

3、おわりに

○子どもたちの学びに規模は関係ない